

はたけやま しげあつ

畠山 重篤 氏 紹介

・プロフィール

1943年中国上海生まれ。宮城県立気仙沼水産高校を卒業後、家業の牡蠣養殖業を継ぐ。海環境を守るには海に注ぐ川、さらにその上流の森を守ることの大切さに気づき、漁師仲間と共に「牡蠣の森を慕う会」を結成（2009年、NPO法人森は海の恋人を設立）。1989年より気仙沼湾に注ぐ大川上流部で、漁民による広葉樹の植林活動「森は海の恋人運動」を行っている。この活動は、小・中学校の教科書にも紹介され、同時に環境教育の一助として全国から子どもたちを養殖場に受け入れている。2011年3月11日の東日本大震災で牡蠣養殖場の施設等全て失うが、コンクリートの防潮堤に頼らず震災後の自然環境を活かした地域づくりを進めている。朝日森林文化賞（1994年）、緑化推進功労者内閣総理大臣表彰（2003年）、宮沢賢二イーハトーブ賞受賞（2004年）、国連森林フォーラム（UNFF）「フォレスト・ヒーローズ」受賞（2012年）。講演多数。

・主な著書

『牡蠣とトランク』（ワック株式会社）、『森・川・海つながるいのち』（童心社）、『鉄が地球温暖化を防ぐ』（文春文庫）、『牡蠣礼賛』（文春文庫）、『森は海の恋人』（文藝春秋）、『カキじいさんとしげぼう』（カキの森書房）、『日本＜汽水＞紀行』（文藝春秋）、『漁師さんの森づくり』（講談社）、『リアスの海辺から』（文春文庫）、『鉄は魔法つかい』（小学館）

・新春講演会（2018年1月24日（水）15時30分～）

主 題「東日本大震災後の人と自然環境の変化についてなど」

テ ー マ「森は海の恋人 人の心に木を植える」

講演要旨「自然の繋がり人と人との繋がり、この二つを両輪に据えなければ何事も長続きはしません。東日本大震災からの道のりにおいても同じことが言えます。人の心の持ちよう一つで何事も良くも悪くも転がる、時代が変わってもそのことだけは何も変わりはありません。そのことを、皆さんと一緒に考えたい。」